



1月は行く、2月は逃げる・・・と言いますが、あっという間に1月が終わり2月になりました。今年度も残り少なくなりました。みんな元気で充実した生活を過ごせるようにしたいと思います。コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が流行しているようです。手洗い・うがいをしっかりとし、栄養と睡眠を十分にとって、健康管理をよろしくお願いいたします。

2 回目のお茶会を行いました

1月11日に年長児だけで行った1回目のお茶会。立ち方、座り方、畳（ゴザ）の歩き方、お茶のたて方、飲み方、お運びの仕方など、一通りのお茶の作法を学びました。1月30日は2回目のお茶会。前回同様、三斎流の森山先生を講師とし、平田楽園クラブ、平田なでしこの会の皆さんにお手伝いいただきました。2回目は、年長児が自分でたてたお茶を飲んだ後は、年少・年中児にお運びをします。1回目は教わることすべてが初めてで、ゴザを歩くのもお茶をたてるのも、とても緊張していた年長児でしたが、2回目はなんだか少し余裕の表情が伺えました。やはり、一度経験し、見通しをもつことができたからでしょうね。反対に、年長児がお茶をたてたり飲んだりする様子を見た後、お客としてゴザに座った年少・年中児が緊張気味でした。

1回目の時は、棗からお茶がこぼれたり、お運びの時に「お饅頭がコロコロ転がったりと、ハプニングもありました。でも、2回目のこの日は、とても上手にお菓子や、たててもらったお茶をお運びすることができました。お茶やお菓子を持ったまま正座したり立ったりするのは、大人でも難しいものです。きっと、おうちや保育室で「今度はがんばるぞ」とひそかに練習していたのではないのでしょうか。年少・年中児の多くは、初めて飲む抹茶に少し苦そうな表情もしていましたが、全部飲む子も多かったです。森山先生は「飲んでみないと、抹茶が苦いことも分かりません。苦手だったら残しても大丈夫。抹茶がこんな味だったってことを知ってくださいね」と、優しく言っていただきました。

お茶会がすべて終わり、年長児が感想を言いました。「お茶をたてるのが楽しかった」「お茶をたてるのは難しかったけれど、今日はできて良かった」「お饅頭が転がらないように気を付けて運んで、できて嬉しかった」など、2回の体験を振り返って自分の言葉で話すことができました。「お茶をたてるのが難しい」と言った子は、前回手が滑り、抹茶の粉をこぼしてしまいました。「お饅頭が転がらないように・・・」と言った子は、前回のお運びの時に「お饅頭がコロコロ転がり落ちてしまいました。この感想を聞いて、1回目に体験したことを自分なりに振り返り、「今度はこうしてみよう」「そっと持つといいかも・・・」など、めあてをもって2回目のお茶会に臨んだことが伺えます。こぼしたり、落としてしまったりしたことは『失敗』に見えるかもしれませんが、でも、その時のまわりの方の優しい関わりで、「よし、次はこんな風にしよう」と、自分なりにやり方や方法を考えたり、意欲をもったりし、上手くいったら達成感や満足感が得られます。こう考えると、生活の中でもたくさんある『失敗』という事柄は、『次への学びのチャンス』なんだと、改めて感じました。

最後に、全園児でお礼の気持ちを込めて『十二支』の歌を歌って、今年度の2回目のお茶会が終わりました。今回のお茶会を通して、丁寧な立ち居振る舞いをしたり、相手のことを思ってお茶を運んだり、感謝をしてお茶を飲んだりする貴重な経験をしました。スピードや便利さが良しとされがちな現代、一つ一つの行動を丁寧に行うこと、心を込めて人と対応をすることなど、とても大切なことをお茶会の中で教えていただきました。子ども達にも、甘いお饅頭とほろ苦い抹茶の味と共に覚えてほしいと思います。



お菓子のお運びをする年長児



「抹茶、ちょっぴり苦いね」



「お饅頭、甘くて美味しいよ」

雪が積もりました！！

今年は暖冬で雪は少ないかなと思っていたら、降りました！積もりました！！1月24日、25日の朝の園庭は真っ白！子ども達は「雪遊びができる」「やったー！」と大喜び。（大人の私たちは、通勤や送り迎えで滑らないかと冷や汗ものだったと思いますが・・・）ぐんぐんタイムが終わったら、雪遊びの準備（防寒具を着る、手袋をはめるなど）ができたクラスから園庭へ飛び出しました。真っ白な雪の上に足跡がつくのが面白かったり、雪を触ったり丸めたりして雪の感触を楽しんだりしていました。次第に雪遊びが本格化し、友達や先生と雪合戦をしたり、雪玉を転がして大きな雪だるまにしようと頑張ったりする姿が見られました。私が写真を撮ろうと園庭に出ると、さっそく雪玉が飛んできて、一緒に雪合戦を楽しみました。（積もった雪の中を追いかけて逃げたりして走るの、結構な運動でした）その後、保護者の方からお借りしたソリで築山からソリすべりも楽しみました。「あー、面白かった！」「手が冷たくなっちゃった」「また遊びたいね」と友達同士で話しながらストーブのまわりであったまる子ども達。そのストーブの柵には濡れた靴下や手袋が掛けて乾かしてあり、今も昔も変わらない光景に心がほっこりしました。



「雪だるまを作ろう」



「雪合戦しよう」「いくよ、えい！」



「雪をたくさん集めて、かまくらを作ろう」

鬼は～そと！福は～うち！

2月2日（金）は節分にちなみ、幼稚園でも節分会をしました。節分の由来は、『「季節を分ける」という意味があるそうです。昔の日本では春は一年の始まりとされ、春が始まる前の日、つまり冬と春を分ける日だけを節分と呼ぶようになったようです。（ちなみに暦の上で春が始まる日を「立春」（2月4日ごろ）と呼びます）季節の分け目には、悪いもの（邪気）が現れやすいとされていて、その象徴が「鬼」なんだそうです。悪いもの（鬼）を追ひ払い、良いもの（福）を呼び込むために豆まきをします。ずーっと昔に、鬼を豆で退治したところから由来しているとか・・・』と、ネットなどを調べると書いてあります。こうしたことを、絵本などを使って各クラスで子ども達にわかりやすいように話し、「みんなの体にも悪いものが入ってこないように豆まきをしよう」と鬼に負けないような鬼の面や豆入れを作りました。

節分会当日、朝から職員がホットプレートで豆を炒るいい香りが漂っています。その匂いを嗅いで「鬼はこの豆が嫌いなんだよね」「みんなで鬼をやっつけようね」と、豆まきに気合が入ったようです。節分集会には自分で作った鬼の面をかぶって集まりました。節分の由来を聞き、クラスごとにお面の紹介をした後、いよいよ豆まきです。豆の誤飲を防ぐため、豆は小さいビニール袋に入れて配りました。するとどこからか「ドーン！ドーン！」と太鼓の音。みんながキョロキョロしていると「ウォー！！！」と赤鬼青鬼が金棒を振り回してやってきました。「キャー！」「怖い！！」と、逃げたり教師の後ろに隠れたりする子が続出。そんな中でも果敢に鬼に向かって豆をまく子もいました。後ずさりしたり泣いたりしながらも持っている豆袋を鬼に向かって投げ、鬼が「まいった、まいった」と逃げていくと「やったー！」と大喜びでした。その後、優しい福の神からおやつをもらって食べて、元気と笑顔が子ども達に戻りました。みんなの豆まきパワーで、幼稚園に悪いもの（邪気）が入ってきませんように！！

